

現状と課題

- 各高校では、入学した生徒の学力・能力や進路希望等の実態に応じて多様な教育活動が展開されている。
- 一方、高校生の実態として、大学入試に関わる状況変化もあいまって、学校外での学習時間や学習意欲の低下傾向が見られ、高校生として身に付けるべき基礎的な学習内容の定着に大きな課題がある。

これまでの取組

- 現行の高等学校学習指導要領（H25年度から実施）では、必要最低限の知識・技能と教養を確保するという「共通性」を重視した見直しが行われており、各都道府県では、基礎学力の確実な定着のための取組が進められている。

基礎テストの位置付けの明確化

- 国としては、現在、高校の教育課程の見直しをはじめとした高大接続改革を進める中で、**多様化した高校における教育の質の充実にに向けた施策を推進**することが必要であり、その際、「義務教育段階の学習内容も含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「それによる高校生の学習意欲の喚起」のための施策を進めることが肝要。
- 具体的には、「学び直し」の要請に応えるための学校設定教科・科目を設定することや、必修科目の標準単位数を増加するなど各高校の工夫を促進するとともに、**生徒の基礎学力の定着度合いを把握する仕組みとして「高等学校基礎学力テスト(仮称)」を導入**する。
- その導入に当たっては、高校生の多様性を踏まえ、同一問題・一斉実施の方式ではなく、**複数レベルの問題から学校が選んで受検し、生徒の基礎学力の定着度合いに応じた目標標準型の評価を段階表示で結果提供**することや、**学校行事等を考慮しながら実施時期を柔軟に設定**できる仕組みとする。
- これにより、
 - ①「**生徒の基礎学力の習得と意欲の向上を図る**」とともに、
 - ②「**学校が、全国的な視点から自校の生徒の基礎学力の定着度合いを把握し、指導を充実する**」、
 - ③「**設置者が、各校のデータに基づき、高校の魅力づくりや質の確保のための体制強化や学校支援に取り組む**」ことを通じて、高校教育の質の向上におけるP D C Aサイクルを構築する。

※なお、名称については、上記に鑑みて「テスト」という表現を改め、高校段階で共通して習得することが期待される学力の定着度の「診断」、「検査」、「検定」等をベースに検討する。

多様化する高校教育の質の確保と「高等学校基礎学力テスト(仮称)」との関係

基本方針

- 量的拡大をベースとした施策から、**多様化した高校における「質的充実」に向けた施策への転換**を目指す。
- 高校において、各学校の特性に応じた**魅力ある学びを提供するなどの方策を推進**するとともに、**生徒の基礎学力の把握・定着のための仕組みを構築**する。
- 大学において、多様な入学生に対応した**初年次教育の見直し・充実など、大学教育の改革**を目指す。

義務教育(小・中学校)

- ◆ 多様な高校入試
- ◆ 高校進学率 (H27)

98.5%



高等学校

(生徒数・割合)

約72万人 (22%)

高校生の実態

- AO・推薦入試を経由する大学進学者は約4割まで増加
 - 授業外の学習時間は約6割の高校3年生が1時間未満
 - ・ 約半数の高校生が読書をしない
 - ・ 高校生のスマホ等の利用は、男子平均3.8時間、女子平均5.5時間
- ⇒ 高校生の基礎学力や学習意欲が大幅に低下していないか。
高校生の時間が有効に活用されていないのではないか。

約330万人 (78%)

約28万人

専門高校

- SPH事業等を通じた専門的な教育の充実 (※農業高校での先進農家の経営実践の学習等)
- 各専門分野で校長会等が実施する検定等を活用した多面的評価の推進 (※情報技術検定、簿記等)

基礎学力テストの活用

- 職業人としての専門性の育成を図る上で、必要となる基礎学力の確実な定着を目指す学校による活用

基礎学力テストの活用以外

- 少人数指導や補習の実施など、きめ細やかな学習指導による基礎学力の定着に向けた取組

普通高校、総合高校

- 生徒の能力・適性等に応じた学力向上の取組の推進 (※SSHやSGH事業の推進、授業充実の工夫、ICT活用、学習評価の改善)

- 重点支援校を指定し、教員配置や教育課程を工夫・充実

- 多様な入試を経て入学した生徒に対して義務教育の内容も含めた学び直しの徹底 (※補習や学校設定科目の活用等)

定時制・通信制

- 広域通信制高校の教育運営改善等をはじめ、教育の質の確保に向けた取組の推進

- 基礎学力テストの活用等を通じて更なる教育の質の向上



県教委等

- 高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備
- 学校支援のための教員人事配置や予算措置、教員研修等の取組

基礎学力テストの導入意義

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、取組が進められるよう、

「定着度合いの目安」

を把握する仕組みを構築



生徒

基礎学力の定着度合いの確認を通じ、興味・関心を引き出し、自ら「学びの質の向上」に取り組めるようにする

- 生徒個人の基礎学力テストの希望受検も可能 (各県に受検会場を設置)
- 高卒程度認定試験との連携を検討 (安易な高校卒業資格の取得の助長につながらぬよう配慮)

(キャリア教育等の充実とあわせて)

社会での活動等に接続

《参考》

- 職場や地域社会で求められる基礎学力のイメージ
- ・ 読み、書き
- ・ 数的な処理能力
- ・ 基本ITスキル、社会人常識 等

約58万人 (55%)

大学・短大

(新たな高等教育機関の検討を含む)

- ・ 入学者レベルに応じた初年次教育の見直し・充実など
- ・ 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入学者選抜

約23万人 (22%)

専門学校・各種学校

就職

約19万人 (18%)

【参考】今後取り組むべき多様化する高校教育の改革全体イメージ

《多様性》

- ・グローバル化
- ・高い専門性
- ・個別分野 など

専門高校

実践的な職業教育の充実

- ・スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業等を通じた専門的な教育の充実（※農業高校での先進農家の経営実践の学習等）
- ・一定水準の専攻科修了生による大学編入学の制度化

普通高校、総合高校

世界で活躍できる人材の育成

- ・スーパーサイエンススクール（SSH）や、スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業等を通じた特色ある教育の向上
- ・大学飛び入学者に対する高校卒業認定の仕組の制度化

定時制・通信制

生徒の実態等に応じた特色ある教育の充実

- ・重点的に支援すべき高校を指定し、指導力のある教員の配置等とともに、生徒の能力等の実態に応じた教育課程編成の工夫などの取組を促進

総合高校の取組に対する支援

- ・生徒一人ひとりに対し専門的かつ集中的な支援を行う専門人材を常駐させるなど相談体制の整備

多面的な評価の推進

- ・専門分野や個別分野において民間や校長会等が実施する検定等を活用した多面的評価の推進（※英検、簿記、情報技術検定等）
- ・日々の学習成果の指導要録への適切な反映など多面的な学習評価の充実

主体的・協働的な学習の推進

- ・生徒の能力・適性等に応じた学力向上の取組等の推進（※ICTを活用した授業充実の工夫、留学やボランティア活動の促進等）

広域通信制教育の質の確保

- ・継続的な実態把握やガイドラインの策定など広域通信制高校の教育運営の改善

基礎学力テスト活用による基礎学力の定着

- ・職業人としての専門性の育成を図る上で、必要となる基礎学力の確実な定着を目指す学校による活用

- ・多様な入試を経て入学した生徒に対して義務教育の内容も含めた学び直しの徹底（※補習や学校設定科目の活用等）

- ・基礎学力テストの活用等を通じて更なる教育の質の向上

上記テスト以外による基礎学力の定着に向けた取組

- ・テスト活用以外でも、少人数指導や補習指導員による補習の実施などきめ細やかな学習指導による基礎学力の定着に向けた取組

※ 学校等の判断で活用も可能

※ 学校等の判断で活用も可能

《共通性》

- ・社会で自立するために必要な学力 など

基盤的・共通的な施策

教育内容の見直し

- ⇒ 次期高校学習指導要領の改訂作業の推進等
- ⇒ 高大接続改革の観点も含め、生徒の進路選択を支援できるキャリア教育の充実
- ⇒ 義務教育段階の学び直しも含めた学校設定科目の活用や、学び直しに関する単位認定の促進を図る

特別支援教育の充実

- ⇒ 特別支援教育に係る教育課程の弾力的運用や指導の工夫による実践を推進

教員の指導力の向上

- ⇒ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した研修の推進・支援など教員の養成・採用・研修の一体的な改革の推進

高校生の修学支援の充実

- ⇒ 高等学校等就学支援金制度や高校生等奨学給付金の着実な実施

学校・教職員の体制整備

- ⇒ 基礎学力テストのデータ等に基づき、支援が必要な高校への教員加配や補習指導員の配置などの支援

遠隔教育の普及・促進

- ⇒ ICT等を活用した効果的な遠隔教育の在り方を研究し、多様かつ高度な教育に触れる機会の提供を促進